

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 月 3	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	言語と芸術 (漢文学) Language and Art (Chinese Literature)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 中島貴奈 / Eメールアドレス: takanan@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 教育学部本館 / オフィスアワー: takanan@nagasaki-u.ac.jp			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: ・日本の古典文学と、そこに影響を与えた中国文学を比較して読むことにより、中国文化の日本に与えた影響の諸相を見る。 ・近世以前の日本人と中国との関わりについて考察する。 授業方法: ・配付資料に基づき、文献を読む。 授業到達目標: ・中国文学や文化が日本に与えた影響についての基本的な知識を身につける。 ・中国文学と日本文学に対する興味・関心が増す。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 江戸時代以前の日本人にとって中国文学は非常に身近なものでした。 この授業ではまず、江戸時代以前の日本人がどのように中国の文学や文化を受容・解釈してきたのかについて考察します。さらに、そうした中国文学や文化が日本の文学に与えた影響について、具体的な作品を読みながら考えてゆきます。 第1回 オリエンテーション(授業の目的・内容・進め方についての説明) 第2回 『萬葉集』恋歌と中国文学 第3回 日本人はどのように中国文学を読んできたか 抄物・注釈書から 第4回 日本人はどのように中国文学を読んできたか 抄物・注釈書から 第5回 日本人はどのように中国文学を読んできたか 抄物・注釈書から 第6回 江戸時代の文学と中国文学 俳諧と中国文学 第7回 江戸時代の文学と中国文学 こどもの本と中国文学 第8回 江戸時代の文学と中国文学 小説と中国文学 第9回 中国文学のパロディ 狂詩狂文 第10回 中国文学のパロディ 黄表紙・洒落本 第11回 江戸時代の文化と中国 第12回 日本人の漢詩文 第13回 日本人の漢詩文 第14回 日本人の漢詩文 長崎を詠んだ漢詩 第15回 定期試験			
キーワード			
教科書・教材・参考書	毎回資料を配付し、参考文献についても授業中に紹介する。		
成績評価の方法・基準等	・毎回の授業時に簡単なレポートを提出してもらい、文献の理解度と独自の考察力をみる。 ・最終試験を行い、授業の内容の理解度・定着度をはかる。 ・出席率・レポートにより、興味や関心の度合いを総合的に判断する。 ・授業に11回以上出席した受講者にのみ最終試験の受験資格を与え、最終試験の成績が70点以上であることが合格最低基準。また、レポートの内容を加えて成績を判断する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			